

日時：2014 年 9 月 11 日 12:45～13:25

場所：徳島文理大学・国際会議場

司会：姫野年会長

配布資料：業務報告 (案) および業務計画 (案)

その他資料：スライド掲示

## I. 理事長挨拶

- 新体制になって初めての学術年会であることや当学会に対する抱負を含め、冒頭に挨拶がなされた。

## II. 報告事項

### 1. 業務報告 (吉田)

- 資料に基づき吉田理事長より報告が行われ、承認された。

### 2. 事務局報告 (大槻)

- 資料に基づき、会員動向・会費納入状況ならびに学会 WEB のバナー広告の現況について報告された。会員数は、横這いから僅かに減少している。また、会費納入も昨年度について 17%が未納である。この状況をなんらかの方法で改善するために検討していることが報告された。加えて、バナー広告も重要な収入源になるため、会員各位にバナー広告提供企業の紹介を依頼された。

### 3. 学術大会/学術年会報告

#### ① 第 20 回学術大会 (東京・東海大学) (坂部)

- 坂部前年会長により終了報告が行われた。事前 53 名、当日 90 名、計 143 名の参加であった。大会賞は小島先生 (北海道立衛生研究所)、学生若手優秀発表賞は木戸先生 (東京慈恵会医大) であった。

#### ② 第 21 回学術年会 (徳島・徳島文理大学) (姫野)

- 姫野年会長より「本日からの学術年会、よろしく申し上げます。今回は、同じ日程で 2,000 人規模の日本看護学会 (慢性期看護) が開催されたため、宿泊などご迷惑をおかけいたしました。二日間、何卒よろしく申し上げます。」との挨拶があった。

#### ③ 第 41 回日本毒性学会学術年会における合同シンポジウム (大槻)

- 座長も務めた大槻理事より、当日のプログラム、そして日本免疫毒性学会の若手の興味深い発表、ならびに SOT/ITSS より Prof. M.D.Cohen が参加し、ITSS の若手 13 名の研究内容の紹介などもあり、有意義なシンポジウムになった由、報告された。最後の討論では、上野理事が招聘された Prof. Hickey (神経病理学・神経系における抗原提示細胞などの専門)も加わって頂いたことも報告された。さらに、合同シンポジウム終了後、若手メンバーと Prof. Cohen との会食の場が設けられ、有意義な歓談の場が提供されたことも報告された。

#### 4. 委員会報告（事務局：大槻）

##### ① 学術・編集委員会

- ImmunoTox Letter は順調に2号（通巻 36、37号）を発刊できた。特に20周年記念号は充実した内容となった。本日更なる改善・向上を目指して委員会を開催する。多くの会員からの投稿を期待している。また、一時期、実施していた学術年会や学会活動自体に対するアンケート調査を今回実施することになったので、是非、ご協力をお願いしたい。

##### ② 広報委員会

- 第41回日本毒性学会学術年会で掲示したポスター(ならびにフライヤー)を紹介した。WEBの更新は、役員人事の変更も加えて刷新した。また、SOT/ITSSのnews letterも許可を得て掲載している。Mailing listによる学会からの連絡は、平均月1.5回の割合で配信をしていることが報告された。
- 重ねてバナー広告提供企業等の紹介を依頼された。

##### ③ 試験法委員会

- 明日の学術年会において試験法ワークショップが設けられること、ならびにJaCVAM皮膚感作性試験資料編纂委員会で検討している *in vitro* 代替法試験の状況について報告があった。また、今後のワークショップのテーマについて、会員の皆様が現在困らていること、疑問に思われていることを調査し、検討する場を設けることも考えていることが申し添えられた。

##### ④ 国際化委員会

- 2015年のSOT学術年会（San Diego）では、平野理事提案のセッションがシンポジウムに採択され、JSIT（日本免疫毒性学会）からは、平野理事の発表と座長、大槻理事ならびに黒田先生（大阪大学）による発表が行われる予定である。
- 今年のSOT学術年会時のITSSミーティングに中村理事が参加し、JSITの若手研究者の研究状況などをスライドで紹介した。これを受けて、第41回日本毒性学会学術年会ではDr. CohenによるITSSの若手研究者の研究状況について紹介があった。
- 広報委員会報告で紹介した通り、ITSSのnews letterをJSITのWEBで紹介しており、担当の西村先生（川崎医大）がAward Committee委員に選出された。

#### 5. 学会賞・奨励賞（牧）

- 資料に沿って、牧学会賞等選考小委員会委員長により選考の過程と結果が報告された。今年度の推薦は学会賞1件のみで、5名の選考委員による審査の結果、「重金属を中心にした環境物質による免疫毒性の特性と評価」をテーマに研究された大沢基保名誉会員（食品薬品安全センター）に学会賞授与が決定した。明日、総会後に授与式ならびに受賞講演が行われる。また、奨励賞については被推薦者なしにつき、今年度は該当なしとなった。
- 奨励賞選考規定の変更について、奨励賞の授与は、年齢で制限して授与を奨励するものではなく、研究内容について奨励するという考え方に基づくものであることから、奨励賞選考規定の第3条から年齢制限に関する文章を削除することが提案され、昨日

の理事会で承認されたことが報告された。それに伴い奨励賞選考規定の変更が行われる。

### III. 審議事項

#### 1. 会計（齊藤）

##### ① 2013 年度決算

- 資料に基づき、齋藤理事より説明がなされ、疑義無く承認された。

##### ② 2013 年度会計監査

- 小島監事より、会計書類を監査した結果、適切に処理されていることが報告された。

##### ③ 2015 年度予算

- 資料に基づき、齋藤理事より説明がなされ、承認された。

#### 2. 人事（資料 p33）

##### ① 大槻理事より、名誉会員への推薦案件はなかったこと。また、理事についても任期 1 年目の終了時点であり、特段の移動・変更はないことが報告された。

##### ② 新評議員候補者

##### ③ 大槻理事より、新評議員候補者 3 名が紹介され、審議の結果、以下の 3 名が新評議員として承認された。

- 角 大悟 先生（徳島文理大学薬学部衛生化学講座 准教授）
- 佐藤 実 先生（産業医科大学産業保健学部成人老年看護学講座 教授）
- 木戸 尊将 先生（東京慈恵会医科大学環境保健医学講座 助教）

##### ④ 委員会委員長

- 試験法委員会筒井委員長より、社内業務の変更に伴い、委員長を辞し、久田理事に委員長を委譲したい由、報告され、久田理事も了解とのことで、承認された。なお、久田新委員長には運営委員にも就任していただくことで了解された。

##### ⑤ 次々年度（第 23 回）年会長

- 吉田理事長より、森本 泰夫 理事（産業医科大学）が次々期年会長として推挙され、満場一致で承認された。なお、森本理事から、学内の事情等により 9 月下旬か 10 月初旬の開催で調整したいとの申し出があり、同年（2016 年）開催の第 75 回日本癌学会（10 月 6～8 日）を避けて頂ければ大きな問題は無い由、伝えられた。

#### 3. 事業計画（吉田）

- 資料に基づき、明日の総会から翌年の総会までの事業計画案が提示され、承認された。

### IV. 次期学術年会紹介（大槻）

- 高野次期年会長が不在のため、事務局より、改めて第 22 回学術年会開催のアナウンスが行われ、多くの会員の参加を呼び掛けられた。

I. 理事長挨拶

II. 報告事項

1. 事業報告
2. 事務局報告
  - i. 会員動向
  - ii. 会費納入状況
  - iii. WEBバナー状況
3. 学術大会報告/準備状況
  - i. 第20回 東京 (東海大)
  - ii. 第21回 徳島 (徳島文理大)
  - iii. 第22回 京都 (京都大)
  - iv. 第41回日本毒性学会学術年会 (神戸) 合同シンポジウム
4. 委員会報告
  1. 学術・編集委員会
  2. 広報委員会
  3. 試験法委員会
  4. 国際化委員会
5. 学会賞・奨励賞

III. 審議事項

1. 会計
  - i. 2013年度決算
  - ii. 2013年度監査報告
  - iii. 2015年度予算
2. 人事
  - i. 評議員：新候補
  - ii. 委員会委員長
  - iii. 次々期 (第23回) 年会長
3. 事業計画
4. その他

IV. 次期年会長挨拶

V. 次々期年会長挨拶

2013年度日本免疫毒性学会事業報告 (案)

2014年9月11日

1. はじめに

日本免疫毒性学会は、2013年度の学術大会を創立20周年の節目の会として開催いたしました。本学会は、前身である免疫毒性研究会から、免疫学と毒性学の双方に係る多分野の研究者の皆様の学術研究成果の発表と意見交換の場として貢献して参りました。2013年度は、従来より友好な関係を有する日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会と学術大会を共催し、さらに、本年6月に開催されました第40回日本毒性学会学術年会では、本学会の企画による合同シンポジウムを開催させて頂きました。また、海外との関係におきましては、米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会 (SOT-ISS) との交流も継続しており、国内外において積極的に活動を行っています。

2. 2013年度 (2013年4月1日から2014年3月31日まで) の事業報告

1) 2013年度理事会及び総会・評議員会の開催

- ・理事会  
2013年9月11日、東京都、東海大学高輪キャンパス1号館2階1203教室
- ・総会・評議員会  
2013年9月12日、東京都、東海大学代々木キャンパス4号館・講堂

2) 第20回日本免疫毒性学会学術大会の開催

第20回日本免疫毒性学会学術大会を、2013年9月12、13日、東京都、東海大学代々木キャンパス4号館・講堂にて、「免疫毒性学—未来図を探る」と題して、年会長：坂部貢理事 (東海大学医学部教授) のもとに開催されました。本学術大会の詳細は、<http://www.immunotox.org/>のHP上で、「学術年会」を選択してご参照ください。

本学術大会は、20周年の節目にあり、20周年記念シンポジウム「免疫毒性学の今後の発展戦略」を含め、盛会となりました。

3) 第40回日本毒性学会学術年会における本学会との合同シンポジウムの開催

2013年6月19日に、上野光一理事 (千葉大学名誉教授) が年会長を務められました第40回日本毒性学会 (千葉市、幕張メッセ) におきまして本学会との合同シンポジウム「免疫毒性の最近の潮流」が開催されました。

4) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号の刊行を行いました。詳細はURL:<http://www.immunotox.org/>のHP上で、ImmunoTox Letterを選択してご参照ください。

- ・18巻第1号 (通巻35号、2013年6月号)、和文版12頁、英文版3頁
- ・18巻第2号 (通巻36号、2013年12月号)、和文版16頁、英文版4頁

5) 学会賞及び奨励賞の授与

2013年度の学会賞受賞者に香山不二雄氏 (自治医科大学)、奨励賞受賞者に吉岡靖雄氏 (大阪大学) が決定し、第20回日本免疫毒性学会学術大会時の総会において両氏に賞が授与されました。

6) 第21回日本免疫毒性学会学術年会の準備

2014年9月11、12日に、徳島市、徳島文理大学国際会議場にて、第21回日本免疫毒性学会学術年会を、年会長：姫野誠一郎理事 (徳島文理大学薬学部教授) のもとに開催すべく準備が進められました。

7) 第41回日本毒性学会学術年会における本学会との合同シンポジウムの準備

2014年7月4日に、神戸市、神戸コンベンションセンターにおいて、中村和事理事 (塩野義製薬株式会社) が主催されました第41回日本毒性学会学術年会 (会期：7月2~4日) におきまして本学会との合同シンポジウム「次世代が切り開く革新的免疫毒性研究」を本学会若手研究者が企画し、開催の準備を整えました。

8) 第22回日本免疫毒性学会学術年会の開催地及び年会長の決定

第22回日本免疫毒性学会学術年会を、年会長：高野裕久理事 (京都大学大学院教授) のもとに、京都市にて開催することが決定されました。

### 3. 2013年度の事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を行いました。

#### 1) 事務局

##### (総務担当：大槻理事)

- ・ 会員の異動、会員数(名誉・一般・学生・賛助各会員及び休会員)の推移と会費納入状況の把握、自動退会(会費未納退会)の整理等に関する事務
- ・ 名簿作成

##### (会計担当：吉田理事、斎藤理事)

- ・ 前会計担当者から新会計担当者への引き継ぎ
- ・ 一般会計及び基金会計に関する事務
- ・ 予算書及び決算書の作成

#### 2) 運営委員会(委員長：澤田前理事長、吉田理事長)

3回の会合を東京にて開催(2013年4月8日、2013年7月17日、2013年12月11日)し、新体制への移行、会務運営、学術年会や関連学会との共同企画の開催準備等が円滑に進むよう、協力体制を整備し、学会運営上の諸問題の改善について議論しました。

#### 3) 学術・編集委員会(委員長：野原理事)

ImmunoTox Letterの刊行を上記のごとく年2回行い、学会ホームページに掲載し、メーリングリストにて発行を通知しました。通巻24号より行われている英語版の追加も継続しました。2012年度後半にImmunoTox Letterへの投稿希望があったことを受け、投稿規定を作成し、Web上に公開しました。

#### 4) 広報委員会(委員長：大槻理事)

学会ホームページの定期的な更新を行い、学術年会等に関する情報を追加しました。また、英文ホームページの充実にも努めました。パナー広告掲載数の減少を受け、新たに増やすための検討を行い、各理事には積極的な勧誘をお願いしました。

#### 5) 試験法委員会(委員長：筒井理事)

本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、第20回学術大会ワークショップのテーマとして、「In vitro immunotoxicology」を取り上げ、3名の先生にJaCVAMで検討されています皮膚感作性試験代替法及び医薬品開発における免疫毒性評価について発表していただき、国際動向に対応

する新規安全性試験法、特に、皮膚感作性試験法の有用性とその限界についてディスカッションを行いました。

また、JaCVAMの皮膚感作性試験代替法資料編纂委員会(委員長：筒井理事)に参画し、ECVAMやOECDで検討中の代替法について評価を行いました。

#### 6) 国際化委員会(委員長：中村理事)

海外からDr. S.W.Burchiel(UNM HSC College of Pharmacy)とDr. J.Descotes(Lyon University Hospitals)の第20回学術大会への参加が、本学会からの20周年記念補助及び第20回学術大会事務局の企画によってなされました。また、Dr.L.P.Myers(US Food and Drug Administration)の第20回学術大会への参加が、第20回学術大会事務局の企画及びSOT-ISSからの補助によってなされました。

一方、2014年3月の第53回米国トキシコロジー学会年会における本学会とSOT-ISSとの共同企画セッションは採択に至りませんでした。中村理事によりSOT-ISSの会合において本学会の取り組みが紹介されました。

第21回日本免疫毒性学会学術年会の特別講演にDr. Marc Pallardy(University Paris-Sud)を招聘すべく、第21回学術年会事務局及びSOT-ISSとの調整が図られました。

#### 7) 学会賞等選考小委員会(委員長：牧名誉会員)

2013年12月1日～2014年3月20日に学会賞及び奨励賞の推薦受付が行われ、提出の推薦書に基づき選考が行われました。その結果、2014年度学会賞受賞者として大沢基保氏(食品薬品安全センター)が選考されました。奨励賞につきましては推薦が無く、2014年度奨励賞受賞者は無しと決定しました。

### 4. 2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日) 会計報告

#### 1) 通常会計

別紙のとおり

#### 2) 基金会計

別紙のとおり(個人的な寄付、学術年会返納金等は通常会計から分離して基金会計として管理しています。)

会 員	会員総数	一般会員	学生会員	賛助会員	名誉会員	明による休	会費納入義務者数 一般会員/学生会員
2005.4	263						
2006.4	255						
2007.4.16	253	238	12	0	3	14	225/11
2008.4.15	223	214	6	0	3	2	212/6
2009.4.1	232	219	7	1	5	3	217/7
2010.4.1	231	219	7	0	5	4	215/7
2011.4.1	240	224	10	0	6	6	218/10
2012.4.1	237	222	9	0	6	3	219/9
2013.4.2	221	209	6	0	6	1	208/6
2014.4.8	210	197	5	0	8	0	197/5
2014.7.1	212	197	7	0	8	0	197/7
2014.9.1	220	201	11	0	8	0	201/11

入会・退会者	入会	退会
2007年度	16	53 (36)
2008年度	25	15 (3)
2009年度	25	25 (5)
2010年度	24	18
2011年度	19	20(8)
2012年度	12	26(12)
2013年度	12	21(5)
2014年度	14	9(7)

役員	理事	評議員	監事
	21	48	2
	21	55	2
	21	58	2
	22	49	2
	22	49	2
	22	54	2
	22	47	2
	22	47	2

2014.9.1現在

( ) 内は会費滞納により退会処理した会員数

会費納入状況	未納なし	未納あり	合 計
2007.3.31	175	75	250
2008.3.31	197	23	220
2009.3.31	209	18	227
2010.3.31	206	21	227
2011.3.31	198	27	225
2012.3.31	190	36	226
2013.3.31	191	39	230
2014.3.31	174	35	209
2014.9.1	152	60	212


区別	継続確認	No.	ネット種	期間	契約書	会社名	窓口
		2	機器	2008.11～掲載	2008.10.3	株式会社 大能	270 大槻
	2012.3月末	継続		2012.05-2012.10			
	2012.9月末	継続		2012.11-2013.04			
	2013.3月末	継続		2013.05-2013.10			
	2013.9月末	継続		2013.11-2014.04			
掲載中	2014.3月末	継続		2014.05-2014.10			
	2014.9月末						
		6	試薬	2009.05～掲載	2009.6.13	和光純薬工業 株式会社	85 手島先生
	2012.3月末	継続		2012.05-2012.10			
	2012.9月末	継続		2012.11-2013.04			
	2013.3月末	継続		2013.05-2013.10			
	2013.9月末	継続		2013.11-2014.04			
掲載中	2014.3月末	継続		2014.05-2014.10			
	2014.9月末						
		10	毒性試	2011.12-2012.05	2011.10.26	株式会社 新日本科学	34 高橋先生
	2012.4月末	継続		2012.06-2012.11			
	2012.10月末	継続		2012.12-2013.05			
	2013.4月末	継続		2013.06-2013.11			
	2013.10月末	継続		2013.12-2014.05			
掲載中	2014.4月末	継続		2014.06-2014.11			
	2014.10月末						

# 第20回 東京 (東海大)



Proceedings of the 20th Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology  
**JSIT2013**  
**第20回 日本免疫毒性学会学術大会**  
 共同開催: 第63回 日本産業衛生学会アレルギー-免疫毒性研究会

[テーマ]  
**“免疫毒性学—未来図を探る”**  
 Theme: “To explore the vision of Immunotoxicology”



**講演要旨集**  
 [会期] 2013年9月12日(木)~13日(金)  
 [会場] 東海大学代々木キャンパス  
 [年会長] 坂部 貢 (東海大学医学部基礎医学系教授)

第20回学術大会  
 期日 2013.9.12-13  
 会場 東海大学代々木キャンパス 4号館5階講堂  
 年会長 坂部 貢  
 東海大学医学部 基礎医学系 生体構造機能学領域  
 テーマ 免疫毒性学—未来図を探る  
 年会賞 北海道立衛生研究所 小島 弘幸  
 学生・若手優秀発表賞  
 同時開催 東京慈恵会 医科大学環境保健医学講座 木戸 尊將  
 第63回日本産業衛生学会アレルギー-免疫毒性研究会  
 共催 日本産業衛生学会アレルギー-免疫毒性研究会  
 協賛 日本衛生学会, 日本毒性学会, 日本臨床環境医学会, 星医会, 公益社団法人日本薬学会  
 参加 153名

## 第21回 徳島 (徳島文理大)



## 第22回 京都 (京都大)

年会長: 高野裕久

**特別講演 5**      7月4日(金) 13:30 - 14:30      **第3会場**

**SL5**      **Microglial cells in CNS immune reactions and their response to anti-inflammatory agents**  
 ○ William F. HICKEY and David J. GRABER  
 Department of Pathology and Department of Pharmacology & Toxicology, Geisel School of Medicine at Dartmouth, USA  
 座長: 上野 光一 (千葉大学)

**シンポジウム 19**      7月4日(金) 14:30 - 17:30      **第3会場**

■ 次世代が切り拓く革新的免疫毒性研究 (日本免疫毒性学会との合同シンポジウム)

座長: 澤田 純一 (医薬品医療機器総合機構)  
 大槻 剛巳 (川崎医科大学衛生学)

**S19-1**      **珪酸曝露関連疾患における免疫動態の包括的解析**  
 14:30 - 14:55  
 ○ 西村 泰光, 李 順姫, 武井 直子, 松崎 秀紀, 大槻 剛巳  
 川崎医科大学衛生学

**S19-2**      **粒子状物質の生体への影響 ~内因性アジュバント (DAMPs) とアレルギー~**  
 14:55 - 15:20  
 ○ 黒田 悦史  
 大阪大学免疫学フロンティア研究センターワクチン学研究室

**S19-3**      **環境化学物質による免疫応答の修飾 -アレルギーに及ぼす影響機序の解明に向けて-**  
 15:20 - 15:45  
 ○ 小池 英子<sup>1</sup>, 柳澤 利枝<sup>1</sup>, 高野 裕久<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>国立環境研究所 環境健康研究センター, <sup>2</sup>京都大学大学院 工学研究科

**S19-4**      **培養細胞を用いるアレルギー試験「EXILE法」の開発と応用**  
 15:45 - 16:10  
 ○ 中村 亮介  
 国立医薬品食品衛生研究所医薬安全科学部

**S19-5**      **長期ステロイド外用療法に伴う掻痒性皮膚毒性**  
 16:10 - 16:35  
 ○ 山浦 克典  
 千葉大学大学院薬学研究院

**S19-6**      **Research on the moving edge: Immunotoxicology investigations by the next generation of researchers in the US/Europe**  
 16:35 - 17:00  
 ○ Mitchell D. COHEN  
 Department of Environmental Medicine, NYU School of Medicine, USA

**総合討論**  
 17:00 - 17:30  
**All the symposiasts with Prof. W. F. HICKEY**

## 第41回日本毒性学会 日本免疫毒性学会 合同シンポジウム



## 1. 学術・編集委員会

1. Immunotox Letter
  1. Vol.18(2) (通巻36号) 2014.1/04.発刊
  2. Vol.19(1) (通巻37号) 2014.6/30.発刊
2. 学会賞等選考小委員会：学会賞の選定



## 2. 広報委員会

1. WEBの更新
2. 第41回日本毒性学会へのフライヤー/ポスター
3. Mailing List の配信 (17回配信)  
(含：第21回学術年会による発信)

## 3. 試験法委員会

1. 第21回学術年会のワークショップ
2. JaCVAM皮膚感作性試験資料編纂委員会への対応
  1. 委員会メンバー委員会メンバー（敬称略）：安達玲子（国立医薬品食品衛生研究所）、小島幸一（食品薬品安全センター）、佐藤一博（福井大学医学部）、武吉正博（化学物質評価研究機構）、森本隆史（住友化学）、金澤由基子（食品薬品安全センター）、筒井尚久（田辺三菱製薬）
  2. 第4回（2013.10/18）、第5回（2014.1/29）、第6回（2014.4/18）会議、第7回会議（2014.7/29）：DPRa=コメント集約、ファイナル案の修正、ARE-Nrf2 testとhCALTの評価報告書ドラフト案の確認、
  3. 第24回JaCVAM評価会議（2014.5/19）

## 委員会報告-2-

### 広報委員会

#### 活動例

1. 米国SOT/ITSSのニュースレター掲載（↓）
2. 毒性学会でのポスター/フライヤー（→）



日本免疫毒性学会  
The Japanese Society of  
**Immunotoxicology**

随時  
入会受付中  
是非、御参加  
ください

詳しくはWEBで

http://www.immunotox.org/index.html

4.国際化委員会

国際化委員会		
SOT/ITSSとの交流 ～ これまでの経緯		
Year	Jpn → USA	USA → Jpn
2005		Dr. Cohen (第12回東京) J.Immunotoxの紹介
2006		Dr.Regal (第13回金沢) 特別講演
2007		Dr. Dietert (第14回神戸)
2008	47回 Seattle 香山先生: JSIT紹介	Dr. Pruett (第15回東京) 招聘講演
以後、正式に契約を交わし、相互に講演費負担を開始。 JSITからの企画をSOT/ITSSの企画として審議、採択、実施を遂行。		
2009	48回 Baltimore 野原先生: シンポジウム	Dr. Zelisko (第16回旭川) シンポジウム
2010	49回 Salt Lake City 大城: シンポジウム	Dr. Burleson (第17回つくば) シンポジウム
2011	50回 Washington D.C. 吉田先生: ワークショップ ブース出展	Dr. Ladics (第18回千葉) シンポジウム
2012	51回 San Francisco 宇島先生: シンポジウム 発表: 新張先生, 中村先生	Dr. Henk van Loveren (第19回東京: 慈恵医大) 特別講演
2013	52回 San Antonio	第20回 (東京: 慶応大) Dr. Scott W. Burchiel 記念シンポジウム Dr. Jacques Descotes Dr. Laine Peyton
2014	53回 Phoenix, Arizona 2014, March 23-27	第21回 (徳島) Dr. Mark Pallardy
2015	54回 San Diego 2015, March 22-26, 派遣委員: 平野先生	第22回 (京都)
2016	55回 New Orleans, Louisiana 2016, March 13-17 Dr. CohenよりNew Orleans 開催ということで、災害 (Hurricane Katrina, 2005年が記憶に新しい) に関連する免疫毒性のセッションを組みたい、そして福島原発事故について候補者がいないかということで、解析 (FISH) による遺伝子変異の検出検査をされている私助大・香山先生に打診中 (大城)	第23回
2017	56回 Baltimore, Maryland 2017, March 12-16	第24回

第53回 Annual Meeting of SOT 2014.

March@Phoenix Convention Center, Arizona, USA

中村理事/国際化委員会委員長によるJSIT紹介のプレゼン



2015 The 54<sup>th</sup> Annual Meeting of SOT ----- SOT/ITSS-JSIT Joint Symposium  
"Immune Responses to Different Classes of Inhaled Particulates: Unique vs Shared Responses and Mechanisms"

Organizers

Prof. Andrij Holian: Montana University/SOT-ITSS  
Dr. Seishiro Hirano: National Institute for Environmental studies, Japan/JSIT  
Dr. Rafael Ponce: Amgen Inc. /ITSS

**CHAIR**  
**Seishiro Hirano, PhD**  
NanoTox Project, National Inst. for Environmental Risk, Tsukuba, Ibaraki, Japan  
Immune Responses to Different Classes of Inhaled Particulates: Unique vs. Shared Responses and Mechanisms

**Andrij Holian, PhD**  
CEHS, Department of Biomedical and Pharmaceutical Sciences, Univ. of Montana

**K. Michael Pollard, PhD**  
Dept. of Molecular and Experimental Medicine, The Scripps Research Institute  
Unique aspects of the immunotoxicity of silicates

**Takemi Otsuki, M.D., PhD**  
Department of Hygiene, Kawasaki Medical School, Japan  
Diverse immune effects of silica and mineral silicates/asbestos

**M. Ian Gilmour, PhD**  
US Environmental Protection Agency  
Influence of source and chemistry on immune effects by ambient particulate matter

**Etsushi Kuroda, MD, PhD**  
Laboratory of Vaccine Science, WPI Immunology Frontier Research Center, Osaka University, Suita, Osaka, Japan  
Molecular mechanisms of nanoparticle-induced pulmonary inflammation

**Andrij Holian, Ph.D.**  
CEHS, Department of Biomedical and Pharmaceutical Sciences, Univ. of Montana  
Commonalities and differences of the distinct particulates that characterize their unique properties in both stimulating immunity and, subsequently, disease.





# 学会賞

平成26年度学会賞

## 大沢 基保 先生

(一般財団法人食品薬品安全センター)

研究タイトル

# 重金属を中心にした環境物質による 免疫毒性の特性と評価

## 奨励賞

該当なし

## 奨励賞：規定変更

変更前：

第3条 候補者の資格：現に3年以上継続して日本免疫毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下であるもの。

(平成22年9月10日制定)

変更後：

第3条 候補者の資格：現に3年以上継続して日本免疫毒性学会の会員であること。

(平成26年9月10日制定)

## 日本免疫毒性学会 2013年度 会計報告 (案)

### 日本免疫毒性学会 2013年度 会計報告 (案)

日本免疫毒性学会 2013年度 会計報告 (案)				(単位円)
通常会計				
収入				
科目	修正予算	決算	備 考	
前年度(2012年度)繰越金	1,381,954	1,381,954	会計管理分1,078,266円、事務局管理分303,688円	
2013年度会費	1,768,000	1,568,000	内訳(一般:175×8千、過去年度19(14人)×8千、学生:6×2千、学生過去年度2(2人)×2千)	
ホームページ・バナー広告	180,000	180,000	(3社×2期)×3万円	
雑収入	300	267	銀行預金利息	
収入合計	3,330,254	3,130,221		
支 出				
科目	修正予算	決算	備 考	
第21回学術年会(徳島)運営費	600,000	600,000	2014年度年会長：姫野先生	
20周年記念事業費	700,000	700,000	第20回学術大会追加分 国内外からの招聘費等(旅費・宿泊費等)	
第53回SOT年会派遣助成	100,000	131,590	2014年3月 アリゾナ州フェニックス(派遣者：中村先生、旅費100,000円、参加費31,590円)	
会費	250,000	166,992	会費(委員交通費+貸し会議室)	
通信費	100,000	72,096	切手・葉書、宅配便、電話	
News Letter 製作費	150,000	162,750	第18巻、1、2号(ページ単価4,000円、第18巻は計39ページと多かったため)	
事務費	250,000	217,604	名誉会員記念品、文具、振込料金、事務局旅費、印刷代等	
ホームページ維持費	300,000	281,754		
予備費	880,254	797,435	次年度(2014年度)への繰越	
支出合計	3,330,254	3,130,221		
基金会計				
収入				
科目	修正予算	決算	備 考	
前年度(2012年度)繰越金	1,293,238	1,293,238		
雑収入	200	231	銀行預金利息(定期預金)	
収入合計	1,293,438	1,293,469		
支 出				
科目	修正予算	決算	備 考	
学会賞・奨励賞 副賞	80,000	80,000	学会賞(5万円、1名)、奨励賞(3万円、1名) 於第20回(東京)	
予備費	1,213,438	1,213,469	次年度(2014年度)への繰越(内訳：普通預金：1,213,469円)	
支出合計	1,293,438	1,293,469		

2013年度 日本免疫毒性学会


会計監査報告書

平成25年度日本免疫毒性学会の会計書類を慎重に監査した結果、適切に処理されていることを確認いたしましたので、ご報告いたします。

2014年 8月 / 日  
高橋道人

高橋道人 

2014年 8月 7日  
小島幸一

小島幸一 

日本免疫毒性学会 2015年度 予算案

日本免疫毒性学会 2015年度 予算案

日本免疫毒性学会 2015年度 予算案		
通常会計		
収入 (単位円)		
科目	予算	備考
前年度(2014年度)繰越金見込み	795,735	
2015年度会費	1,568,000	内訳(一般会員会費納入義務者数202名、2014年4月現在、2013年度実績1,568,000円)
ホームページ・バナー広告	180,000	3社×2期×3万円：180,000円
雑収入	300	銀行預金利子2013年度実績 267円
収入合計	2,544,035	
支出		
科目	予算	備考
第23回学術年会運営費	600,000	2016年度年会長(後述・審議事項)
第55回SOT年会派遣助成	100,000	2016年3月ルイジアナ州ニューオーリンズ(被派遣者：未定)
会議費	280,000	会議費(委員交通費、2013年度実績 166,992円)
通信費	100,000	切手・葉書、宅配便、電話(2013年度実績72,096円)
News Letter 製作費	150,000	2号分(2013年度実績162,750円)
事務費	250,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等(2013年度実績217,604円)
ホームページ維持費	300,000	2013年度実績 281,754円
予備費	764,035	次年度(2016年度)への繰越見込み
支出合計	2,544,035	
基金会計		
収入		
科目	予算	備考
前年度(2014年度)繰越金見込み	1,163,669	
雑収入	200	銀行預金利息
収入合計	1,163,869	
支出		
科目	予算	備考
学会賞、奨励賞 副賞	110,000	学会賞：5万円、奨励賞：3万円×2
予備費	1,053,869	次年度(2016年度)への繰越見込み
支出合計	1,163,869	

**A 新評議員 候補者**

角 大悟 先生

会員番号 603

入会年度 2012年度

現職：徳島文理大学 薬学部 衛生化学講座 准教授  
推薦者

徳島文理大学 薬学部 衛生化学講座 姫野 誠一郎

川崎医科大学 衛生学 大槻剛巳

佐藤 実 先生

会員番号 624

入会年度 2014年度

現職：産業医科大学 産業保健学部 成人老年看護学講座 教授  
推薦者

産業医科大学 産業生態科学研究所 呼吸病態学 森本 泰夫

川崎医科大学 衛生学 大槻剛巳

木戸尊将 先生

会員番号 586

入会年度 2011年度

現職：東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座 助教  
推薦者

東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座 柳澤 裕之

北里大学医学部 衛生学 角田 正史

**B 委員会委員長**

試験法委員会

筒井尚久先生

田辺三菱製薬株式会社 開発本部 臨床薬理部



久田 茂 先生

あすか製薬(株) 開発研究センター

理事・試験法委員会委員

→ 運営委員会委員にも

**C 第23回(次々年度) 年会長**

森本 泰夫 理事  
産業医科大学  
産業生態科学研究所  
呼吸病態学 教授



**日本免疫毒性学会事業計画**

(2014年10月から2015年9月) (案)

2014年9月11日

**1. はじめに**

日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会として発足以来、2013年に第20回記念の学術大会を開催するまでに時を重ねてきました。その間、免疫学と毒性学の双方に係わる異分野の研究者の方々の情報収集と意見交換の場として、小規模ではありますが、極めて学際的な学会として機能して参りました。今後も、その特色である先進性と応用性のある研究動向を維持しつつ、会員にとって有益な学会となることをめざし、環境、食品、医薬品等、人の健康に係る諸要因に対して免疫毒性学的な観点から研究活動を展開し、国民の健康保持増進に貢献して参りたいと考えています。

そのためには、学会の運営基盤の一層の強化と国内外における学術活動をより充実する必要があると考え、国内の関連学会との共同企画の学術集会や米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会(SOT-ISS)との交流も継続していきたいと思えます。

本学会の事業計画は、秋を中心に開催される定例の総会で承認を得た後に開始されることから、本事業計画は概ね2014年度の総会から2015年度の総会前日までの期間を対象としています。なお、事業報告と会計上の予算は、通常の年度(4月から翌年3月)の期間で行っています。また、補充役員の任期に関しましては、総会の翌月の10月1日から任務開始とし、任期満了日は正規役員の満了日と同一日とすることといたします。

**2. 事業計画(2014年9月11日から2015年9月9日まで)**

**1) 2013年度・2014年度 理事会の開催**

(理事会の前半を前年度、後半を次年度とするため)

2014年9月10日 徳島市、徳島文理大学

**2) 2014年度 総会・評議員会**

2014年9月11日 徳島市、徳島文理大学国際会議場

**3) 第21回日本免疫毒性学会学術年会の開催**

第21回日本免疫毒性学会学術年会を、2014年9月11、12日に徳島市、徳島文理大学国際会議場(21号館2階)にて、「免疫毒性学研究の新たな一歩」と題して、年会長：姫野誠一郎理事(徳島文理大学薬学部教授)のもとに開催します。詳細は、URL：<http://p.bunri-u.ac.jp/jsit2014/>をご参照ください。

**4) 第22回日本免疫毒性学会学術年会の準備**

第22回日本免疫毒性学会学術年会を2015年9月10、11日に、京都市、京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールにて、年会長：高野裕久理事(京都大学大学院教授)のもとに開催の準備が進められています。

**5) 学会役員などの補充**

2015年度の評議員の補充に関して2014年度総会で承認を得ます。

**6) 2015年度・2016年度 理事会の開催**

(理事会の前半を前年度、後半を次年度とするため)

2015年9月9日、京都市(予定)

**7) ImmunoTox Letterの発行**

既に19巻第1号(通巻37号、2014年6月号)は既刊となっておりますが、さらに下記の2号の刊行を予定しています。

- ・ 19巻第2号(通巻38号、2014年12月号)
- ・ 20巻第1号(通巻39号、2015年6月号)

**8) 学会賞及び奨励賞の授与**

第21回日本免疫毒性学会学術年会時の総会にて、2014年度学会賞を大沢基保氏に授与します。奨励賞については推薦が無かったため、受賞者は無しとなりました。

**9) 第23回日本免疫毒性学会学術年会の開催地および年会長の決定**

第23回日本免疫毒性学会学術年会を、北九州市にて、森本泰夫理事(産業医科大学医学部教授)を年会長として開催することにつき、総会の承認を得ます。期日は、2016年9月下旬から10月初旬が予定されています。

**10) 第54回米国トキシコロジー学会年会への派遣**

2015年3月に米国San Diegoにて開催される、第54回米国トキシコロジー学会年会に、本学会とSOT-ISSの共同企画テーマがシンポジウムとして採択されたことから、JSIT側の座長を務める平野靖史郎理事を派遣します。

### 3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を予定しています。

#### 1) 事務局 (総務担当: 大槻理事)

- ・会員の異動、会員 (名誉・一般・学生・賛助各会員・休会員) 数の推移と会費納入状況の把握、自動退会 (会費未納退会) の整理等の事務
- ・名簿作成  
(会計担当: 斎藤理事)
- ・一般会計及び基金会計に関する事務
- ・予算書及び予算書の作成

#### 2) 運営委員会 (委員長: 吉田理事長)

2014年度前期に既に2回 (2014年4月14日、2014年7月9日) 開催していますが、さらに数回の会合を持ち、会務運営や学術年会開催準備等が円滑に進むように図ります。

#### 3) 学術・編集委員会 (委員長: 野原理事)

上述のImmunoTox Letter の編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対して電子メールにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。

2015年度学会賞ならびに奨励賞の授賞のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼します。

#### 4) 広報委員会 (委員長: 大槻理事)

継続して、学会ホームページの定期的な更新を行い、英文ホームページの充実に努めます。また、パナー広告企業を新たに増やすため、積極的な勧誘を行います。

#### 5) 試験法委員会 (委員長: 筒井理事)

本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、第21回学術年会のワークショップのテーマを「アレルギーと自己免疫疾患に関する新たな試験法開発を目指して」と題して、4名の先生に発表していただき、アレルギーや自己免疫疾患の発症を評価しうる試験法について討論を行います。

また、前年度から開始しましたJaCVAMの皮膚感作性試験代替法資料編纂委員会 (委員長: 筒井理事) への参画を継続し、ECVAMやOECDで検討中の代替法について引き続き評価を行います。

### 6) 国際化委員会 (委員長: 中村理事)

第21回学術年会事務局及びSOT-ISSの補助によって、第21回日本免疫毒性学会学術年会の特別講演にDr. Marc Pallardy (Universit  Paris-Sud)を招聘します。

本学会とSOT-ISSとの交流事業に位置付けられています共同学術企画提案が2年間にわたって不採択となっていましたが、平野理事 (国立環境研究所) をJSIT代表、Dr. Holian (Montana University) をco-chairとして、2015年3月の米国トキシコロジー学会年会 (San Diego) における共同学術企画を提案していましたところ、シンポジウム (165分) として「Immune Responses to Different Classes of Inhaled Particulates: Unique vs. Shared Responses and Mechanisms」が採択され、準備が進められています。

### 4. 予算

#### 1) 2015年度通常会計予算 (2015年4月1日～2016年3月31日)

別紙のとおり

#### 2) 基金会計

別紙のとおり。

基金会計は、学術年会返納金や個人的な寄付等を通常会計から分離して別途会計として管理し、学会賞等の副賞に充当すると共に、通常会計では対応不可能な、しかし、予算措置を必要とする案件に備えるものです。

# 第22回日本免疫毒性学会学術年会

年会長: 高野裕久 (京都大学)

テーマ: 「免疫毒性の新たな視点 ― 毒性影響とかく乱影響―」

2015年9月10日－11日 (木)(金)

京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール

既決定講演者: 一條秀憲 (東京大学)

